



LAYANG LAYANG

特集

「ルックイーストポリシー」の再興

JICAマレーシア所長 府川 賢祐

大きな意味を持った政権交代

5月に行われた総選挙では、大方の予想を覆し、野党連合「希望同盟」が勝利をおさめ、建国来初の政権交代が実現しました。旧与党のなりふり構わぬ選挙対応にもかかわらず野党連合が勝利したことに、国民の間には自分たちの力で政権を選択したのだという高揚感が漲っているように感じます。マハティール首相の記者会見が開かれるたび、多くのマレーシア人が注視しています。これから起こる変化への期待と、新政権の仕事ぶりをしっかり見届けようという両方の気持ちがあるのではないのでしょうか。

今回の選挙結果は、東南アジア地域全体にとっても大きな意味があったと思います。1990年代に大きく民主化が進んだ東南アジアの各国において、21世紀に入って強権的と評される政治手法が復活してきています。そうした流れに一石を投じた意味で、第14回総選挙における一人ひとりの有権者の一票は、とても重たいものだったのではないのでしょうか。

新政権の方向性

新政権は選挙で掲げたマニフェストの履行をトッププライオリティに取り組んでいます。政権発足100日間で達成するとした10大政策は、GSTの廃止やガソリン補助金の復活、大規模インフラ事業の見直しなどのマクロ経済政策です。そのため、賢人会議を発足し、政府系機関のトップを交代させるなど、目まぐるしい展開を見せています。

一方、JICAの協力パートナーであり政策の実行部隊である省庁については、全閣僚の任命に時間を要した上、組織体制の見直しや幹部の異動も噂され、足腰が固まっていません。彼らが今後何をプライオリティとして取り組んでいくのか、しっかりフォローしていく必要があると考えています。

「ルックイーストポリシー」再興への期待

マハティール首相は就任後最初の外遊先として日本を訪問、「ルックイーストポリシー」の再興への期待を述べました。私は、ルックイーストポリシーこそが東南アジアという日本にとって最重要地域の中でも、マレーシアを特別な国たらしめていると考えています。首相の発言を受け、あたかもそれが解禁の合図であったかのように、政府の方々が「日本から学びたい、日本の教訓を教えてほしい」と期待を口にするようになりました。

JICAはこれまで日本とマレーシアの懸け橋として、1万7千名の研修員を日本に送るとともに、3千6百名の専門家、1千5百名のボランティアを派遣してきました。ルックイーストポリシーを再び活性化する一助として、より一層の貢献をしてみたいと思います。

5-6月の出来事

貿易円滑化を支える～マレーシア税関との協力～

6月5日、プロジェクトの最終会議が開催されました。本プロジェクトは、貿易円滑化に伴って重要となる原産地規則（注）の正確かつ迅速な適用を目指してマレーシア税関の能力強化を目的とし、活動として、原産地規則に関連する通達やガイドラインの草案の他、税関職員500人以上に対する研修を実施しました。また、税関職員の一人が、原産地規則分野で、世界税関機構（WCO）準認定専門家の資格も獲得しました。今後WCO研修の講師を無事にこなせば、マレーシア初の認定専門家となります。協力終了後の研修実施体制も確立され、大きな成果を収めてプロジェクトは終了しました。

（注）原産地規則

貨物の原産地（＝物品の「国籍」）を決定するためのルール。関税政策等にはその適用・不適用が物品の原産地に依存する場合が存在するため、原産地規則を用いて原産地を決定することが必要となる（財務省関税局・税関（2017年9月）「原産地規則の概要」より）。

「経済連携協定における特惠原産地規則に係る透明性及び予見性向上プロジェクト」 期間：2015/7-2018/6 マ側機関：マレーシア税関



税関職員を対象に研修を実施する出口専門家



固い握手を交わす税関審議官とJICAマレーシア次長

家電製品の冷媒の回収技術を全国から参加した技師に

6月27日、JICA調査団と職業訓練校（Industrial Training Institute）Kepala Batas校が共同で、エアコンなどの家電製品の冷媒の回収を担当する冷媒技師を対象に、プロジェクトでのフロンガスの回収・再生の取り組みについて紹介する技術セミナーを開催しました。同校を管轄する人的資源省人的資源局副局長も参加したこのセミナーには、マレーシア全国から多数の冷媒技師が参加し、総勢400名を超える盛況となりました。この盛況ぶりは、本事業下で本邦受入れ活動に参画した同校の関係者の尽力によるところが大きかったと言えます。彼らが日本で太洋商事などを訪問してフロンガス回収・再生・破壊の仕組みを学び、感激したことで、同校でもセミナーを実施したいと提案し、実現しました。両国の関係者の熱意と協力により成功裏に開催されたセミナーとなりました。



開会前意欲あふれる主催者たち



冷媒回収のデモンストレーション

「オゾン層保護と気候変動対策に資するフロンガス回収・再生・破壊処理産業創出普及・実証事業」 期間：2017/3-2019/2 マ側機関：環境局

スランゴール州でコミュニティ主体の防災体制確立を支援



プロジェクトの開始を宣言



日本の防災への
関心の高さを感じさせる

6月29日、スランゴール州政府、東北大学災害科学国際研究所（IRIDeS）と、最初の活動となるワークショップを開催しました。日本から IRIDeS 今村所長、仙台市の防災関係部署の担当者などが出席、マレーシア側からも国家災害管理局、市民防衛局他の多岐に亘る防災関係機関が参加、日マの防災分野での取り組みを共有しました。今後3年かけて、災害データを整理・分析するとともに、州の防災関連部局およびコミュニティリーダーに対し住民を対象とした防災意識啓発プログラム実施のノウハウを提供、防災関連部局とコミュニティの協働により、防災モデル活動が住民主体で実施されることを目指します。

「地域コミュニティの安心と安全向上のための災害リスク理解に基づく防災力強化プロジェクト」 期間：2018/6-2022/6 マ側機関：セラランゴール州政府

お知らせ

ボランティア募集！ 求む、経験豊富な技術者！

JICAボランティアの2018年度秋募集（10月）に向け、要請の取りまとめ、現地調査を行いました。当事務所では①産業人材育成、②障害者支援、③環境の3課題を中心に要請を集めていますが、毎回頭痛の種となっているのが、職業訓練校からの要請に対してなかなか候補者を確保することができないことです。要請は、ロボティクス、メカトロニクス分野がほとんどで、各校とも、長年企業等で経験を積んだシニア世代から、専門知識のみならず、日本の労働倫理、訓練手法の指導を期待しています。また、ボランティアを通じて日系企業と協力関係を構築し、学生の実習先や就職先、最新技術情報を入手することも期待されています。候補者となり得る人材は日本に多数いるはずですが、2年以上も候補者を持ち続けている訓練校もあり、定年退職された方にも是非参加してほしいものです。その他には、国立公園地域に居住する先住民支援、高齢者向けレクリエーション普及活動、学童保育、ハラル日本料理指導等の新しい要請も出てきています。

その他のニュース

- 貿易使節団として再来訪-第三国研修が築いたマレーシアとコートジボワールの絆（2018年5月1日）
<https://www.jica.go.jp/malaysia/office/information/event/180501.html>
- 多岐に亘る福祉分野の関係機関・関係者をつなぐ福祉分野カウンターパート会議（2018年6月6日）
<https://www.jica.go.jp/malaysia/office/information/event/180606.html>
- 【JICAボランティア配属先関係者からのメッセージ】サラワク州における特別教育のために青年海外協力隊（JOCV）と協力して（2018年6月15日）
<https://www.jica.go.jp/malaysia/office/information/event/180615.html>
- 【JICA帰国研修員からのメッセージ】大阪における地震被害者へのお見舞い（2018年6月22日）
<https://www.jica.go.jp/malaysia/office/information/event/180622.html>

マレーシアの教育：アセアンで今、起きている教育改善運動

マレーシアのパナン島に設置されている東南アジア教育大臣機構理数科教育センター（SEAMEO RECSAM）にJICAシニアボランティアとして派遣され、3年目の活動を展開中です。マレーシア独立（1957年）からわずか10年後に誕生したRECSAMでは、現在、アセアン各国そしてアフリカからも多くの教員を受け入れています。私自身もRECSAMのスペシャリストの一人として、これまでの日本の教育現場での経験を頼りに、手作り教材の開発、これらを活用した授業指導法の研究やワークショップを実施しています。驚いたのは、他のスペシャリストも、日本でのJICAの研修などで得た日本の教育技術を十分に活用しながら、アセアンの教師たちへの研修を行っていることです。このようなスペシャリストたちと共に、日本人としていかに貢献していけるか日々挑戦の連続です。アセアン諸国では、今、「STEM（Science, Technology, Engineering & Mathematics）教育」に重点を置いた科学教育の改善が進められています。その思想は、科学を総合的な視点から学ばせ、現実の諸問題を解決できる実践的な力を育成することを目標としています。私は、この教育改善には特に「手作り教材」が非常に有効と考えています。ペットボトルなど身の回りのローコストの材料を用いて容易にでき、しかも生徒自ら手製の実験を体験できる教材の威力は、既成の教材をはるかに凌いでいます。アセアンの教師たちはこのような教材づくりのスキルや知識を熱望しています。さらに最新の傾向として、再生可能エネルギーとしての風力や太陽光エネルギー、さらにはIT、ロボティクスなどにも力点が置かれ始めています。もし、日本がこのような分野での教材づくりへの支援ができるようになれば、この教育改善運動への大きな前進になるかと思えます。

研修参加者の地道に真摯に一つ一つ技術を「本気」で習得している姿に感動させられます。



教材の制作においても上手くできあがると子供のよう
に飛び上がって喜ぶ様子は、私にとっても至福の一瞬
です。この理数科教育センターで、このような教育改
善運動に携わりアセアンの先生方の教育改善へのエネ
ルギーの1滴にでも成り得れば有難いことです。

（JICAシニアボランティア（理科教育）大塚 祐司）

JICAマレーシア及びニュースレターのバックナンバーはこちら→ <http://www.jica.go.jp/malaysia/index.html>

JICAホームページはこちらから→ <http://www.jica.go.jp>

配信(追加、停止等)に関するご希望、ご意見、ご要望など → ms_oso_rep@jica.go.jp

JICA Malaysia Office

Level 29, Menara Citibank, 165 Jalan Ampang 50450 Kuala Lumpur Malaysia
Tel: 603-2166 8900 Fax:603-2166 5900 E mail address : ms_oso_rep@jica.go.jp